



若月忠男 議員

## 仁多米ブランド維持対策は

**町長** できる限りの支援体制の構築を検討する



**問** 奥出雲町内で起業する人材、特に若者を育てる起業支援が必要で、起業を志す人に経営知識や資金調達の方法などを指導し支援する、相談窓口を庁舎内に設けて相談支援員強化対策の考えについては。

**答** この件についてはかなり専門的な知識が必要であり、また起業後のサポート等も必要である。町としてどのような形で支援が出来るか検討したい。なお、商工会等と行政で連携して起業セミナー等を開催することを今後検討する。

**問** 勝田町長のカラーを出す新たな政策面での事業取り組みと、財政面での取り組みの考えは。

**答** 私は井上前町長の施

策展開の基本的な方向性を継続し、奥出雲町の将来像、町づくりの基本的方向を示した奥出雲町総合計画を誠実に着実に実行にすすめていく考えである。そして元気・安心・笑顔の町奥出雲町とともに生きていくをスローガンに町政運営に取り組んでいく。

新たな取り組みとしては、財政状況の透明化を推進するため町の会計について貸借対照表、資金収支計画書などの財務諸表を作成するほか、安全・安心の確保と、中・長期的なコスト削減・平準化を図っていく。

**問** 奥出雲町の米価下落対策についての考えは。

**答** 今回認定農業者以外の個人農家を含む全ての農業者を対象として、貸付期間10年以内で限度額500万円を運転資金としてJA雲南が貸付ける災害資金制度が創設される。実質金利年2.4%をJA雲南と当該1市2町が無利子で補給する方向で現在調整を進めており、非常に有利な貸付制度と考え

る。今後も県並びに市町村会やJA等の関係機関が連携し、国に対しては責任ある米の適正な需給対策と米価の安定化を図るための、迅速かつ的確な支援を講じるよう強く要望していく。

**問** 米生産者が水田基盤整備や客土・排水・耕作道等への助成金のかさ上げの考えは。

**答** 耕作放棄地の発生抑止、地域農業の担い手確保という観点から土地改良事業の地元負担金の低減措置は今後、考慮すべき事項であると考えている。農地を守ることは非常に大切であり、さまざまな検討を重ねていく。

**問** 米価下落に対する仁多米ブランド維持の考えは。

**答** 仁多米ブランドを消さないためにも、関係機関とも協議し、できる限りの支援体制の構築を検討する。

**問** 1丁の利活用についての考えは。

**答** 文部科学省は、来年度から安倍政権が力を入れる地方再生の一環として離島や山間部にある児童生徒が少ない小学校・中学校・高等学校がテレビ会議システムを活用し離れた地域にある学校と遠隔授業を行うモデル事業に乗り出すとしている。現時点ではテレビ会議システムを活用したモデル事業の詳細は明らかではないが、他校へ移動することなく自校でさまざまな授業が行えることは児童生徒の学習意欲や学力の向上、また教員の指導力向上にも効果があるものと思われる。この事業の詳細が明らかになった時点で詳しく検討してみたい。



仁多コシヒカリの刈取と米検査状況

**問** 米価下落に対する仁多米ブランド維持の考えは。

**答** 仁多米ブランドを消さないためにも、関係機関とも協議し、できる限りの支援体制の構築を検討する。

**問** 1丁の利活用についての考えは。

**答** 文部科学省は、来年度から安倍政権が力を入れる地方再生の一環として離島や山間部にある児童生徒が少ない小学校・中学校・高等学校がテレビ会議システムを活用し離れた地域にある学校と遠隔授業を行うモデル事業に乗り出すとしている。現時点ではテレビ会議システムを活用したモデル事業の詳細は明らかではないが、他校へ移動することなく自校でさまざまな授業が行えることは児童生徒の学習意欲や学力の向上、また教員の指導力向上にも効果があるものと思われる。この事業の詳細が明らかになった時点で詳しく検討してみたい。